

東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2007年11月1日

社会福祉法人バオバブ保育の会
バオバブ保育園ちいさな家 御中

〒 160-0004

所在地 東京都新宿区四谷1-9三宅ビル6階

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-3352-6730

代表者氏名 清水 康之 印

以下のとおり評価を行い、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたしました。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野			
	①	H0404092	<input checked="" type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
	②	H0303063	<input checked="" type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
	③	H0304082	<input type="checkbox"/>	福祉	<input checked="" type="checkbox"/>	経営
	④		<input type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
	⑤		<input type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
	⑥		<input type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	バオバブ保育園ちいさな家					
事業所連絡先	〒	206-0002				
	所在地	東京都多摩市一ノ宮3-1-16				
	TEL	042-375-4701				
事業所代表者氏名	遠山 洋一					
契約日	2007年	5月	31日			
利用者調査票配布日(実施日)	2007年	6月	15日			
利用者調査結果報告日	2007年	8月	25日			
自己評価の調査票配布日	2007年	6月	15日			
自己評価結果報告日	2007年	8月	25日			
訪問調査日	2007年	9月	4日			
評価合議日	2007年	9月	20日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたり、理解促進のため、調査票の配付時に調査の趣旨や第三者評価制度の概略を記した依頼状を添付するとともに、園内掲示用のポスターを作成した。また調査開始後に提出御礼と未提出者への呼びかけをかねたチラシを全対象者に配付し、提出促進の一助とした。事業所職員対象の説明会では、所定の説明事項のほか、解釈の困難ないくつかの評価項目についても説明するとともに、自己評価実施にあたっての質問を随時受け付ける旨を伝え、よりの確な自己評価実施に配慮した。					

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯33を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は標準様式に準拠した。調査票に添付の封筒による機関への直接郵送にて回収し、調査結果は選択式設問・自由回答ともすべて園に報告した。なおその際、自由記述式設問については、回答者の匿名性に配慮した上で、極力原文を尊重して結果に掲載した。

利用者総数(人)
 調査対象者数(人)
 有効回答数(人)
 利用者総数に対する回答者割合(%)

33
33
25
75.8

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」「満足」の順に48%・48%の計96%で、項目別では「食事メニューへの配慮」「十分な戸外活動」「体調変化への対応」「子どもや育児に関する相談対応」「保護者の考えを聞く姿勢」「プライバシーの保護」「子どもを大切に思う姿勢」「職員の礼儀正しく丁寧な対応」及び「入園時の説明」の各項目で80%台～100%の高い支持率となっている。その他の項目でも6～7割の支持を得ており、「はい」の割合が半数を下回った項目は見られなかった。自由意見では、充実した食事サービスに対する賛辞や感謝の声の他、「子どもの様子を見ながら考え、親の気持ちも受けとめて応えてくれる」など、安心して預けられる園の姿勢に対する支持が寄せられている。課題や指摘としては、保育者との日常的なコミュニケーションに関して、より密なやり取りを望む声が複数見られた他、個別に具体的な要望が寄せられている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	23	1	0	1
有効回答25のうち、23名の回答者が「はい」と答えており、「いいえ」と選択した回答者はいなかった。計7件寄せられている自由意見も、すべて充実したメニュー、一人ひとりに合わせた調理法や食材へのこだわりなど、本園の食事サービスに対する保護者の信頼をうかがわせる意見で占められている。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	23	1	0	1
前問同様、有効回答25のうち、23名が「はい」を選択しており、「いいえ」との回答は見られなかった。自由意見は計5件で、園庭の物理的な広さについて若干の言及が見られるものの、0～2歳児対象の保育園として、子どもの発育に配慮した戸外活動に関し、総じて肯定的な意見となっている。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	18	3	0	4
「はい」の割合は7割となっている。自由記述にも特に目立った意見は見られず、計4件のうち2件は「事例(経験)がないのでわからない」との意見である。				

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	23	1	0	1
有効回答25中23名の回答者が「はい」と答えており、「いいえ」は選択なし。計3件の自由意見も、保護者への連絡について、働く保護者への配慮やきめ細かな連絡内容など、すべて肯定的な意見である。				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	15	7	0	3
「はい」が6割、「どちらともいえない」が3割弱という回答分布で、「いいえ」との回答は見られなかった。自由意見は外部からの侵入に対する懸念を挙げる声が1件あるのみである。				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	18	6	0	1
回答割合は「はい」が7割、「どちらともいえない」が2割強で、「いいえ」を選択した回答者は見られなかった。自由意見は行事の頻度について「ちょうどよい」「多いかなと感じる時もある」とする意見が1件ずつの他、「時期によっては行事がつまって忙しいが、基本的には配慮されているのでは」との意見の計3件である。				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	21	3	0	1
84%の回答者が「はい」と答えており、「いいえ」との回答はなかった。自由意見は「園からも声をかけてくれるので話しやすい」との意見と、「お迎えの時間帯に担任と会えない」との意見が2件ずつ挙げられている。				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	22	0	0	3
有効回答25に対し、22名の回答者が「はい」を選択し、「どちらともいえない」「いいえ」との回答はなかった。計4件の自由意見もすべて肯定的なニュアンスとなっている。				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	20	2	0	3
8割の回答者が「はい」と答えている。自由意見にも特に目立った意見は見られなかった。				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	25	0	0	0
有効回答者25名全員が「はい」を選択しており、計3件の自由意見も「日々のノートや送迎時の報告など、とても大切にしてもらっている」など、すべて肯定的な内容となっている。				

11. 職員の対応は丁寧か	25	0	0	0
前問同様、有効回答者全員が「はい」と答えている。自由意見も「職種を問わず気持ちのよい挨拶をしてくれる」「とてもフレンドリーに接してくれる」など、概ね好意的なニュアンスの内容となっている。				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	15	9	0	1
「はい」が6割、「どちらともいえない」が3割強（「いいえ」はなし）という回答分布。自由意見では「子どもがお世話になっていることもあり、言いにくい面はある」「職員がフレンドリーな反面、言いにくい」「不満はないが、やはり不満を言えば居づらくなるのでは」など、保護者の微妙な心理をうかがわせる意見が散見された。				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	17	5	0	3
「はい」が7割弱、「どちらともいえない」が2割（「いいえ」はなし）という割合となっている。自由記述では特に目立った意見は見られなかった。				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	18	1	5	1
回答分布は「はい」が7割、「いいえ」が2割となっている。自由記述では、複数挙げられている内容など、特に目立った意見は見られなかった。				
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	9	1	0	0
該当する回答者10名のうち、9名が「わかりやすかった」と答えており、自由意見でも「園の一般的なルールだけでなく、子どもや親の気持ちなどいろいろと話してくれた」との意見が見られた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(A)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/>非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(A)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/>非該当
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目													
	<p>評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 70%;">標準項目</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p>【A+の取り組み】 ○あり ●なし</p>		評価	標準項目		●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
評価	標準項目													
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当												
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当												
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当												
	カテゴリ1の講評													
	<p>「基本保育計画(全4園共通、必要に応じて見直しが行われる('05年度最終改訂))」の他、「保育目標」として「入園のしおり」・「園のしおり」、ホームページ等に記載がある。また「基本保育計画」や「園のしおり」は非常勤を含む全職員に配付の上年度当初の職員会議で伝達され、周知が図られ、利用者に対しては入園説明会で「入園のしおり」を配付する他、5月の全園保護者懇談会で説明している。具体的な判断案件では、基本理念に立ち返ることを意識して会議で園長が話している。ただし法人の経営理念は不明確な部分もあるため検討が望まれる。</p> <p>管理職・リーダー層の職務内容としては、「基本保育計画」の第9章に「職員同士の関係と園の運営」として明示され、全職員に配付されて説明・周知が行われている。また、現行では園長代行は総務が行うこととなっており、これも同書類の中に明確に規定されている。</p> <p>各種会議体として現在は職員会議、リーダー会議、クラス会議などがあり、「基本保育計画」の中でそれらの位置づけ等が明確にされている。今後運営委員会を設けていくことも検討している。また、特に重要な案件については理事会で決定することとなるが、職員に対しては重要度に応じて職員会議・リーダー会議を通じて伝達と周知を行い、意見を収集してそれを計画に反映させている。また、利用者に対しては、全園保護者懇談会やお知らせ文書や園だよりを使用して周知を図っている。</p>													

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ2	
2	経営における社会的責任	
	サブカテゴリ1	
	社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	
	評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし	
	評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	
評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	
◎あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ2		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		
評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	
◎あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	<p>評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など) <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている <input type="radio"/>非該当
	<p>【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</p>	
	<p>評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている <input type="radio"/>非該当
	<p>【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</p>	
	<p>カテゴリ2の講評</p>	
	<p>「基本保育計画」の冒頭に「パオバブ職員として心がけたいこと」として10項目を明示し、より具体的に職員として注意すべきことも明確に記述されている。また同計画の中に「体験ボランティアの受入れ」の項目があり、この中で当園の考え方が示され(年間受入実績約30名)、総務が担当者となって受け入れている他、ボランティア本人には「保育体験ボランティアの方へ」を配付してオリエンテーションを行っており、プライバシー保護に関しても触れられている。また市主催の「子育てボランティア養成講座」の実習園として約5名程度を受け入れている。</p> <p>「親子サロンびーだま」を開設して週に4回開放し、利用者は昨年度新規登録者実数で199名、のべ利用者数は約4,000組の親子が利用している。また、今年度も200組近くの登録者があり、名簿も整備されているほか、年度末には総括の報告が職員会議で行われて翌年の事業に活かされており、その機会を利用して栄養士が「食に関する相談」を受けて報告書も作成するなど、園の専門性の地域還元役に立っている。また園長は「多摩市子どもプラン推進地域協議会」に委員として参画している。</p> <p>ホームページや地域向け情報誌「プレーメンの庭から」(B5版6ページ、年10回市の各施設などに設置して自由に持ち帰ってもらうもの)を配布して情報公開を行っている。見学者については常時受け入れを行っており(年間で50件程度)、積極的に公開している。また、市の子ども家庭支援ネットワーク連絡会(児童相談所、保健所、民生児童委員、学校、医師などによるネットワークケース会議)に参画し、各機関での協力体制が整備されている。また、日常的なつながりの中で、支援を要する地域の子どもや親の支援に役立っている。</p>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ3	
3	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
		○非該当
	◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
		○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
評点(B)		
評価	標準項目	
○あり ◎なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	
	○非該当	
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	
	○非該当	
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	
	○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
評点(B)		
評価	標準項目	
○あり ◎なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	
	○非該当	
◎あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	
	○非該当	
◎あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	
	○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目
	カテゴリ3の講評
	<p>「入園のしおり」では苦情解決の仕組みが明示され、第三者委員も設置されており、玄関での掲示や苦情受付ボックス及び受付用紙の設置も行っている。今回の利用者調査においても7割以上の利用者が苦情解決制度の存在を認知しており、高い割合で浸透していることが推察される。また、実際に寄せられた苦情や要望に関しては「インシデント報告書」などの記録を残して職員会議において討議をし、連絡ノートや口頭・面接などの方法により利用者にフィードバックしている。</p> <p>現在のところ利用者意向調査のようなものは実施していないが、連絡ノートや個人面談、懇談会等の際のヒアリングなどによって利用者の意向を把握し、収集された情報がその後の保育活動に活かされている事例が複数確認された。アンケート調査も含めて利用者の意向を正しく把握できるような調査方法を今後模索していく必要も感じているとのコメントがあった。</p> <p>現在のところ地域のニーズ調査のようなものは実施していないが、「親子サロンびーだま」における口頭でのニーズ把握を行い、それを後の地域活動事業に活かしている。福祉業界全体の情報収集に関しては情報誌や保育団体からの情報をベースにしている。それらをもとにした「政策動向」は理事会において報告し、また取捨選択された情報は、職員会議などを通じて職員に説明、共有化に努めている。</p>

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ4	
4	計画の策定と着実な実行	
	サブカテゴリ1	
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している 評点(B)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している 評点(B)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(B)</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしているなどの取り組みを行っている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ2	
	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	
	評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	カテゴリ4の講評	
	<p>中長期計画という形式では策定されていないが、「バオバブの保育の今～34年の歴史の層の上に～」や「園の運営体制の見直しについて」などの文書の中で長期的なビジョンが提示されており、理事会などでの報告が行われているものもある。事業計画は法人全体のものと園独自のものが策定されており事務室に保管されているが、保護者や職員からの開示請求には応えられる状態になっている。短期的な活動についても、「委員会・係 担当一覧表」において担当者が定められ、それらの担当者によって計画的に会議が行われてスケジュールも策定されている。</p> <p>年度事業計画や行事計画の作成手順は慣例的になっており、案件の判断手順が明確に定められてはいない。また行事計画等は現場職員や利用者の意見を収集して策定され、実際に行事日・時間の設定等を要望に応じて変更する等している。事業計画には役割やスケジュール等一部不明確な部分もあるが、短期の計画や現場の計画、行事計画などは担当者や実施までのスケジュールが詳細に示されて実行されている。ただしすべての計画について「目標」や「達成度合い」の明示と評価に関しては現状では不足している部分があると考えられる。</p> <p>「基本保育計画」の中に安全に関する各種マニュアルが示されており、その中で手順と責任が明確化されている。また、事故報告書や「インシデント報告書」を作成して保管し、閲覧に供することによって再発防止に取り組んでおり、「安全防災委員会」においてはお散歩コースの危険箇所の拾い出しを行ったりしており、今後危険箇所マップなどに落とし込んでいく予定とのことである。現状では職員会議などを通じて共有化を図っている。</p>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ5	
5	職員と組織の能力向上	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
	評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる ○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる 評点(B)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している ○非該当
	○あり ◎なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している ○非該当
	○あり ◎なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている ○非該当
	◎あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している ○非該当
	◎あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している ○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目 サブカテゴリ2	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(A)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点(A)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
カテゴリ5の講評		
<p>求められる職員像は「基本保育計画」の中に謳われており、これが職員のすべての行動規範となっている。また、現在「ファシリテーション・プログラム」の策定に着手しており、来年度からの運用に活かしていく予定としている。また、職員採用に際しては面接・作文・実技などが行われるが、「感性豊かな人材」であるかどうか注意して採用にあたり、ほぼ希望に沿った採用ができているとのコメントがあった。また、職員配置に関しては12月ごろに文書で職員の希望を聞いた上で決定することとしている。</p> <p>職員個々の育成計画は策定していないが、園長との個人面談(12月ごろ)の他異動や配置の希望等の文書により意向や目標を把握、人材育成に役立てている。研修参加に関しては法人内部での研修(合同研修・個別研修等)の他、外部研修や農家での農作業に参加して研鑽を積み、研修報告書を全職員に配付して共有を図っている。また「基本保育計画」中に各種マニュアルが整備され、手順が示されて職員の判断可能な範囲も定められている。また年齢クラスごとの各職員により「前期のまとめ」「後期のまとめ」が作成され、職員個々の気づきが捉えられている。</p> <p>現状では、園長面接のほか異動希望や配置希望、「前期のまとめ」「後期のまとめ」「1年を振り返って」などの文書によって個々の職員の育成に取り組んでいる。トータルでの人材育成システムが完成しているわけではないが、その必要性から現在新しい人材育成制度の構築に取り組み始めている、とのことであった。新しい人材育成制度は来年度を目処に導入していくことを目標としている。</p>		

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ7	
7	情報の保護・共有	
	サブカテゴリ1	
	情報の保護・共有に取り組んでいる	
	評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	◎あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	◎あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		
評点(A)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	
◎あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	
◎あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	
◎あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
カテゴリ7の講評		
PCは6台、一部LANが構成されているが、重要データはロックされている。また、文書データに関しては一部管理に改善を要すると思われるものもあるため、より一層の徹底が望まれる。		
個人情報の利用目的は、明示されているものもあるが、一部示されていないものもあるとのことであった。ただし、写真等の利用時には承諾書を受けており、承諾されたもののみを使用することとしている。また、個人情報保護規程が策定され、開示請求に関しても規定されており、ボランティア・実習生にはオリエンテーションで説明している。		

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ8	
8	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果	
	昨年度の法人内の他園の事例を参考にして、今年度職場研修会(4園合同研修会)を開催し、特に安全管理とリスク管理について学ぶことに取り組んでいる。その結果安全確保とリスク防止に関する意識向上、取り組みの発展に結びついている。	
	サブカテゴリ2	
	前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果	
	今年の初めに「何のために記録を書くか」のテーマで職場研修会(4園合同研修会)を開催し、各種様式の整備や記録の推進に取り組んでいる。現場の書類の記録にも改善が見られ、今後も繰り返してフォローアップのための研修会を継続していくことを予定している。	
	サブカテゴリ3	
	前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果	
	一昨年度から計画的に、年間保育計画や月間保育計画の様式改善・統一に取り組んでおり、同時にそれらの計画の進捗管理と改善に取り組むための「保育会議」を定例化することによって、意識的に共有していく体制が確立された。また、IT環境に関しても電子メールの活用などを積極的に推進し、業務の効率化が推進されている。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ4	
事業所の財政等において向上している		
評価項目1		
財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている		<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果		
財務状況を意識してコスト管理に取り組んでいる。また今後も人事制度の再構築などに取り組んでいくこととしており、来年度導入に向けてすでに着手している。		
サブカテゴリ5		
前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している		<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」		
改善の成果		
今年度から「親子サロンびーだま」の経営形態を改善するなど、体制の見直しを図ることにより、より積極的な取り組みを推進することが可能となり、地域の利用者ものべ4,000組という水準に達している。		

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している 評点(A)		
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	◎あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	◎あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
サブカテゴリ1の講評		
<p>法人が運営する4保育園合同のホームページを作成して情報提供に努めている。ホームページは各園の紹介のほか「こんな保育を」「子育て支援」「入園案内」等のタイトル別に分類され、カットや写真を交え、親しみやすさに配慮したページ作りとなっている。「入園案内」では、＜保育園への入園手続き＞として市の入所の要件(基準)と最低条件が確認でき、また、「こんな保育を」では、法人として共有されている保育園の理念を詳細に記載しており、園の思いを伝えるとともに、子育ての基本的な考え方としても提案されている。</p> <p>見学を目的とした来園者には「園のしおり」を手渡し、保育園の情報を伝えている。なお、見学は子ども達の実際の活動や表情を含めて見ってもらうことを考慮して、午前9時から午後5時の間を基本としている。また、保育全体を理解する総務保育士や園長が出来る限り対応することとしているため、なるべく事前の電話連絡をお願いしている。ただし保護者の就労等の都合も考慮し、不意の場合等でも、可能な限りの対応ができるようにも努めている。</p> <p>多摩市の保育園を利用する保護者の連絡協議会主催による「保育園入所説明会」(平成18年度は12月開催)に担当者を派遣し、保育園情報の提供に努めている。ここでも「園のしおり」を配布するとともに、多摩市内全園の保育園情報が共通の様式にまとめられた「多摩市の保育園ガイド」も同協議会により作成されており、同様に配布されている。</p>		

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(A)</p>		
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
	◎あり ○なし	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>		
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
	◎あり ○なし	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
サブカテゴリ2の講評		
<p>入園決定後、入園説明会を開催して、保護者にサービス開始に関するの準備や心構えを伝えている。入園説明会では「入園のおしり」をもとに、園長を始めとする担当職員が解説し、保育理念や基本的なルールの説明が行われる。またその後には個別面談が行われ、それぞれの保護者からの不明な点や、食事や健康等に関する個別なケースでの説明が行われている。</p> <p>入園時の個人面談では、事前に保護者に記入を依頼した「保育予備調査票」・「生活状況表」をもとに、その確認とニーズの把握が行われている。保育開始初日等の都合のつく日に親子で園生活に参加してもらい、家庭での食事援助や親子の接し方の状況把握を行っている。なお、これらは保護者への食事メニューの周知や職員と保護者のコミュニケーションの場としても位置づけられており、家庭との継続的なつながりを持ったサービス提供を重視する園の思いがうかがえる。</p> <p>入園時に環境の変化が及ぼす子どもへの負担を考慮し、可能な限り不安やストレスの軽減に配慮した支援をすることや、家庭の状況を把握し、少人数グループからのクラス編成等、子どもの状況をふまえた上での家庭からの移行を行っている。また、サービスの終了時においても子どもや保護者の状況に応じてつながりを持つ等、継続的な配慮が見られる。</p>		

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	
評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(A)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
◎あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している		評点(A)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
◎あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	<p>評価項目3 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある ○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している ○ 非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
	<p>評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している ○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している ○ 非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
	サブカテゴリ3の講評	
	<p>日々の子どもの発達の状況把握の手段として、「個人別記録」「保健票」を作成し、園としての定めた手法にて記録している。またこれらに関する定期的な記録の周期が定められるとともに、「保育日誌」等の毎日の記録でも子どもの状況が捉えられている。加えて、家庭での子どもの様子の把握と保護者のニーズの収集に向け、個別面談あるいは家庭訪問を年1回以上行い、直接的な保護者との意見交換の機会を設けている。</p> <p>保育園の理念から業務の手法等をまとめた「基本保育計画」を作成し、法人が運営する各保育園にて共通に活用している。その中には保育計画となる項目も設けられ、これに基づく計画として「年間保育計画」や「月間保育計画」(保育所保育指針でいうところの年間・月間指導計画)、児童票内の「個別計画」が作成されている。また、計画の一部は「クラスだより」においてわかりやすく掲載するようにし、家庭との共有を図るとともに、クラス懇談会でも子どもの発達と計画に関する説明が行われている。</p> <p>月の計画では、振り返りや気づきが翌月の計画に反映される記入形式の工夫が見られ、継続的な保育を行うための仕組みが見られる。またその記録からは、子どもの姿に応じ、適宜計画の変更を行って発達に即した保育を行っている様子がうかがえる。なお、ほとんどの計画には園長の捺印がされており、定期的なチェック体制も整えている。また「月間保育計画」については、各クラスの計画をコピーして月例保育会議で配付し、関係する全職員による把握に努める他、必要に応じて担当者の補足説明もされている。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(A)		
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
		○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている
		○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している 評点(A)		
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
		○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
		○非該当
	◎あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
		○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
サブカテゴリ5の講評		
<p>子どもに関する事情を外とやりとりするときには、必要が生じた場合には法に基づくもの以外は保護者の同意を得るようにしている。子どもへの接し方については、「基本保育計画」の中で「職員としての心がけたいこと」として、服装や身だしなみ、振る舞い、言葉遣い等配慮する点についてまとめている。なお「基本保育計画」は全ての職員に配付している。ただし「基本保育計画」に示される内容と現場での実践には齟齬も見られており、今後は職員間の共通理解をさらに深め、よりよい保育の実践が行われることを期待したい。</p> <p>子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援として、園では布おむつを使用することとしているが、保護者が紙おむつを希望する場合には紙おむつでの対応も可能としている。また保護者から苦情が寄せられた場合には「インシデント報告」に記録し、即日会議を開き対応策を講じ、実践しているとのことである。非常勤職員への対応として、「園長からのお願い」に一人ひとりを尊重する気持ちで子どもに接してほしい旨を記述、採用オリエンテーションにて周知を図っている。</p> <p>個人情報の取り扱いについては、保護者へホームページ・写真の掲載に関するアンケートを毎年実施し、意向を聞いている。ただ、保育室内では個人の記録を含め、取り扱いについて保護者との合意形成が望ましいと思われるところや、プライバシー保護の観点から見直しが望まれる事項が散見された。今後は子ども達のプライバシーの保護を含め、保育室内の整備を図るとともに、保護者の同意を得る必要があるものに関しては、その仕組みを構築されることを期待したい。</p>		

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ6		
6	事業所業務の標準化	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(B)		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている <input type="radio"/>非該当
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <input type="radio"/>非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(A)		
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している <p style="text-align: right;">評点(A)</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし	
	サブカテゴリ6の講評	
	<p>保育の手順や対応マニュアル等をまとめた「基本保育計画」が作成されている。同計画は職員が話し合っで作成したもので、実際に現場で活用しやすい表記とするよう配慮し、内容として保育理念や子どもへの関わり方、遊びと活動、食育、保健安全、地域支援と貢献等が明文化され、パート職員を含む全職員に配付されている。これにより、保育の多くの部分での活用が期待されるが、今後に向け、定期的な見直しや現場での点検、また読み合わせや勉強会等の職員間の共通理解に向けた取り組みについて、さらなる検討を期待したい。</p> <p>保育ニーズの多様化をふまえ、職員のサービス水準の確保に向けた手引書整備や業務の標準化の必要性を認識しているが、一方では、保育の質を高める上ではその場に応じた職員の適切な判断が重要であるとも考えており、単に定められた手法に沿った対応だけではなく、職員の自主的かつ臨機応変の判断も重視しているとのことである。安全対策に向けては「インシデント報告書」を作成、ヒヤリハット事例や実際に起きた事例をもとに、その後の対応の改善に努めている。また防災用品の点検や園内の危険箇所の確認、防犯についても手法を定め、実施している。</p> <p>職員間の情報の交換や問題解決、手法等の共有などのため、各種の定期的な会議を設けている。園全体で行う保育会議と各クラスのクラス会議を月に1回行うとともに、同法人のパオパブ保育園と合同で行うリーダー会議(週1回)、さらに「合同職員会議」(半年に1回以上)を行っている。この他、ホームページ作成、給食会議、献立会議、園長総務会議などを開催している。なお、各会議では職員相互の啓発や意見交換を重視する風土の中で、必要に応じ、先輩や専門職からの助言も行われ、実践されている。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目
-----	--------

III サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目1の講評			
<p>「基本保育計画」をもとに、年間保育計画・月間保育計画・週案を立て、日誌に毎日記録している。月間保育計画については、各月の振り返りと子どもの様子及び次月の計画について話し合いを行うとともに、年3回全職員による振り返りを行い、計画の進捗状況を確認している。ただし各計画の記載内容に関しては、一部に整合性の面で課題も散見された。今後は各計画の立案理由を明確にし、計画(P)→実践(D)→評価・反省(C)→見直し(A)のPDCAサイクルによる、よりよい保育の実践を期待したい。</p> <p>子ども一人ひとりの育ちを大切にすため、小グループ制による保育を実施。食事・排泄・睡眠・活動が子どもの状況を配慮しながら行えるよう配置するとともに、各部屋ともままごと・絵本・畳のコーナー等子どもの発達に配慮した玩具を設置し、子どもが選んで活動できるようにしている。また、子ども達に自分だけの持ち物があるという安心感と愛着や親のぬくもりを感じてほしいという取り組みから、保護者が各々(0歳児は絵本・1歳児は箱・2歳児は人形)手作りの玩具を製作し、日常の活動の中で使用している。</p> <p>全園児に個人別月間指導計画を立て、個人別日誌にて記録をとり、一人ひとりの子どもの状況を把握する取り組みを行っている。また、各クラスの子どもの様子については、職員会議(月1回)リーダー会議(週1回)で報告を行い、職員間で共通理解を図るようにしている。また、近接する同法人の園と2園間の合同会議を行う他、同園に移行する2歳児については、相互の園での様子の報告及び話し合いの場をもち、一人ひとりの子どもについて十分に配慮することができるような体制を整えている。</p>			

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている
	◎あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している
	◎あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している
	◎あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている
	◎あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2の講評		
<p>自然の風土に根ざした食生活を目指し、献立はだしをとった和食を中心に、無添加無着色・旬の食材を取り入れ、なるべく加工食品を使わない工夫をしている。おやつも手作りにて提供、山形の農家との提携により、米や豚肉等の食材を産地から直送する取り組みも行っている。献立会議を月1回実施、各クラス担任及び調理担当者が出席し喫食状況・献立への要望等を話し合うとともに、調理職員が常に保育室に通うなど、保育室と連携してよりよい献立の提供に努める他、どの職員が配置されても変わらない味を提供できるようにシステムを構築している。</p> <p>アレルギー児については入園時面談にて把握し、医師の診断書をもとに除去食を提供している。また提供する場合には皿を別にして名前を書いたクリップではさみ、調理担当者が口頭で除去内容を説明、食事提供の際も2人の職員が必ず確認をとって間違いがないように工夫している。離乳食会議(月1回)では、担当職員と調理担当者により、離乳食の進捗状況の把握をしている。また子どもの体調により食事内容を変更する配慮も積極的に行っている。</p> <p>給食は、家庭の雰囲気大切にすると配慮から、おひつや鍋等に入れ、子どもの目の前で小分けに盛り付けるようにしている。0・1歳児についてはゆるやかな担当制をとっており、担当の職員が子どもの状況に応じて授乳・食事を提供するようにしている。また母乳希望者にも対応している。食べるための意欲を育てる一環として、園庭にてキュウリ・ヘチマ・枝豆・ナス等の野菜を育て、園庭での活動の際に子どもの目の前で収穫し、新鮮なまま食べるなど、生活の中に食の活動が自然に味わえる環境を整えている。</p>		

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している
	◎あり ○なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をするしくみがある
◎あり ○なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	
◎あり ○なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目3の講評		
<p>子どもの健康状況の把握には「健康票」を作成して、定められた周期とフォームにより、過不足のない対応に努めている。また歯科検診(年に2回)・内科検診(0歳児は月1回 他は年2回)、1～2歳児を対象としたぎょう虫検査を年1回、身体測定を0歳児は毎月、1～2歳児は年に4回行っている。これらで得られた結果は、必要に応じ保護者に書面で伝えられ、必要に応じて早期の治療を勧めている。園全体としての発生状況などは「保健だより」によって知らせている。</p> <p>SIDS(乳幼児突然死症候群)の防止に向けた取り組みとして「睡眠チェック票」を策定するとともに、保育士が常にそばにいるよう心がけ、15分ごとの呼吸チェックを行っている。なお事故が発生した際の生存時間を再度考慮した中で、今後は10分間隔でのチェックとするよう改善を行うとのことである。感染症発生時には、保護者の目につくクラス内にて情報の掲示を行い、家庭でも配慮をしてもらうよう意識啓発に努めている。また臨時に発行する「保健だより」でも保護者にわかりやすく説明するようにしている。</p> <p>健康に関する保護者からの相談の多くは、日頃のお迎え時の話や連絡帳等で寄せられるが、すべてにおいて看護師の直接的な対応を基本として行っている。ただし、健診日にはあらかじめ連絡帳等で寄せられた内容について直接医師がアドバイスをを行う仕組みとしている。</p>		

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている 評点(A)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など) <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている <input type="radio"/>非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし		
評価項目4の講評		
<p>玄関ホールには、子どもと一緒に絵本を読むなど、親子で交流をもつことができるように椅子とテーブルを設置し、送迎の際の憩いの場となっている。また九官鳥の飼育や、玄関ホールに設置している絵本の貸し出し等の取り組みも、親子の交流を深める一助としている。園児が外遊びをする際には、虫除け用にハッカ水を調合・使用し、子どもの体にとって負担のないような配慮もなされている。また散歩に出かける際には場所を明確にするために、玄関ホールの掲示板に行き先を記入することとしている。</p> <p>「バオバブ祭り(夏祭り)」や「プレイデー(運動会)」「バオバブフェスタ(バザー)」は姉妹園と合同で実施。秋刀魚の炭火焼、野焼きパン等、姉妹園が実施する行事には2歳児が参加し交流を深めている。また「新米を食べる会」では、2歳児の部屋で透明の鍋に入れた米が炊き上がる様子を観察したり、餅つきでは子どもの身の丈に合わせた杵と臼を使用し、2歳児がついた餅を昼食で黄粉等にして食べたりする等、3歳未満児の園でも可能なさまざまな取り組みを行っている他、お楽しみ会では手遊びや歌等を歌ったり、職員の出し物を楽しんだりしている。</p> <p>食育への取り組みとして、園庭でナス・キュウリ・ヘチマ・ブルーベリー等さまざまな栽培活動を行い、収穫したものはその場で洗って食べる等、食を身近に感じる工夫とともに、昼食で使用する玉ねぎ・トウモロコシ・ソラマメ・ジャガイモ等の皮むきやこんにやくちぎり、きゅうり切り等、3歳未満児にも可能な調理活動を行っている。また、ひな祭り・こいのぼり・七夕・お楽しみ会など季節の行事の際には、行事にちなんだお楽しみメニューを提供し、1・2歳児はホールや園庭で会食するなど、普段の食事とは違った環境で食事を楽しむ機会を設けている。</p>		

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある
	◎あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している
	◎あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている
	◎あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている
◎あり ○なし	5. 保護者からの相談に応じる体制を整えている	
【A+の取り組み】		○あり ●なし
評価項目5の講評		
<p>毎日の様子は連絡帳で行う他、行事や日頃の保育の様子を撮影した写真やコメントを入れた掲示物を各クラスに貼り出し、報告している。掲示物はファイルにまとめて親睦会(保護者主催)でも紹介するとのことである。また玄関ホールに毎日の給食を展示し、自由に持ち帰ることができるレシピも常備している他、玄米と白米の違いを展示したり、提携農家の紹介を閲覧できるようにしたりする等、食への関心を深める多彩な取り組みを行っている。保護者の意見を聞けるよう意見箱を設置しているが、活用方法についての明示はないため、今後の課題であろう。</p> <p>面談は随時可能である他、年1回以上個人面談または家庭訪問等をクラスごとに実施し、園や家庭での様子を話し合っている。またクラス懇談会で日頃の様子を報告し、保育への理解を深めてもらう他、グループ懇談会は保護者・職員相互の情報交換の場ともなっている。なお欠席した保護者には後日個人面談を実施し、資料を配付しているとのことである。また、入園初日には新入園児とその保護者が来園し、1・2歳児の保護者はクラスの様子を体験するとともに、0歳児の保護者は離乳食の試食を行っている。</p> <p>園での日頃の子どもの様子を見てもらうとともに、職員とゆったり話をする機会として、保護者に年に1回以上の保育参加を呼びかけ、希望日は保護者の意向を尊重して設定している。保護者が参加する行事については、保護者が参加しやすいように夜や日曜日等を設定し、多くの保護者が参加可能となるように配慮している。また急な延長保育に対しても柔軟に対応し、補食も提供できるように配慮している。</p>		

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている	
	評点(B)	
	評価	標準項目
	○あり ●なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている
●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
【A+の取り組み】		○あり ●なし
評価項目6の講評		
<p>虐待を発見した場合には「多摩市子ども虐待対応マニュアル」に基づき、園長に報告し、園長が関係機関の職員と相談し対応することになっている。また「基本保育計画」中において、困難な問題を抱えた家庭への支援や児童虐待の疑いを察知した場合については、担任だけの判断で処理せず園長に相談すること等を記し、職員への周知を図っている。ただし組織的な内部の啓発活動としては、個人参加の研修内容の報告にとどまっており、今後は組織としてさらなる理解を深め、虐待の早期発見に努めるための取り組みが図られることを期待したい。</p> <p>気になるケースについては、リーダー会議で報告し、職員の共通理解を図る場としている他、配慮を要する事例が生じた場合には、市の子ども家庭支援センターに連絡し、同センターを中心にケース会議を開催するなどの対応を図るようしており、話し合いの内容については、出席者が必要な職員に報告するようになっているとのことである。今後は連携や連絡体制を明示した園独自の組織図の作成等の工夫により、全職員へ連携体制についての周知がより確実に図られることを期待したい。</p> <p>グループ懇談会において子ども達のクラスでの様子を伝えるとともに、子ども達の発達や育児についての話し合いをもち、保護者と職員間で共通理解をもつように努めている。また、保護者や園主催の子育て講座等の開催により、保護者の育児力向上に努めるとともに、親睦会、懇談会等で、保護者同士及び職員との情報交換の場を積極的につくる努力をしている。</p>		

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	
	評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している
	◎あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目7の講評	
	多摩市作成のリーフレット等は積極的に常備して、保護者が必要な情報を活用できるように努めている。また地域ファミリーサポートセンターのパンフレットや周辺地域の医療機関に関するガイド冊子等のコピーも必要に応じて受け取り可能である。理念に掲げた地域交流と、3歳未満児の保育を行う保育園としてのバランスに配慮するとともに、保育園の物理的な敷地面積から多くの方との関わりがもてない事情を課題として捉えている。ただし、一度に来園する人数の制限が比較的調整しやすい中高生の職場体験プログラム等には、可能な限りの協力をしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園としての基本事項を明示する「基本保育計画」の整備
	内容	「基本保育計画」を作成し、保育を行うための諸事項を明確に定め、これを非常勤を含む全職員に配付して、園として共通かつ職員間で共有されたサービスの提供に努めている。内容には「基本的な保育理念と保育の目標」から始まり、遊びと活動、食事と食育、保健安全、子育て支援と社会貢献、計画と記録、研修、職員同士の関係と園の運営等の項目に分類され、明文化されている。なお、これらの取り組みの中でも、保育現場では子どもの発達やその場の状況に応じた適切な判断の重要性を踏まえ、職員一人ひとりの自主的な判断を損なわないように努めている。
2	タイトル	自然の風土に根ざした食へのこだわりと保育の実践
	内容	和食中心のメニューには旬の食材を取り入れ、無添加無着色で加工食品をなるべく排除し、提携する農家からの食材調達も行うなど、さまざまなこだわりのある食事を提供している。また保育士は調理室、調理職員は保育室で、それぞれ体験研修を行う等、調理と保育の独自の連携により、子ども達の状況を食事に反映させるよう工夫している。園庭では実のなる木や季節の野菜を栽培し、四季を通して自然の恩恵を感じられる環境を積極的に作るとともに、子どもたちは野菜の皮むき等も体験している。なお提携農家とは職員の派遣や行事等での協力等も行っている。
3	タイトル	つねに向上を意識した問題点の掘り起こしと改善への迅速な対応
	内容	4園合同の内部研修会(職場研修会)ではさまざまなテーマで行われているが、「子どもの命を守り、成長・発達を促す保育とは」や「何のために記録を書くか」など、当園や法人内の他園での改善テーマを中心に設定し、外部から専門家を招くなどして研鑽に努めるとともに、早期の問題点解決に取り組んでいる。また、必要な場合には繰り返して研修を反復するなど、問題点を把握して法人全体で迅速に対応しようとする意識が強く見られる。このことは組織マネジメント、サービス提供すべての分野に共通して見られ、今後のさらなる展開に期待したい。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	「基本保育計画」のさらなる活用及び保育の実践
	内容	「基本保育計画」が職員全員に配付され、各計画類や日頃の保育について共通理解を図っている。ただし各計画類の整合性について一部課題も見られている。今後は「基本保育計画」中の「計画について」の項目に列記されているように各計画のもつ意味を再度確認し、PDCAサイクル(計画から実践、評価・反省をふまえた見直しまでの一連の流れ)をさらに効果的に機能させながら保育の実践が行われることを期待したい。また訪問調査時の現場の実践でも「基本保育計画」との齟齬が見られており、職員の共通理解を深めるための取り組みが望まれる。
2	タイトル	中長期計画を含めた関連性の確立された計画類の策定
	内容	組織においてはミッション・ビジョンを示した経営理念と、それを実現するための中長期計画、年度事業計画、そして計画を実行するためのアクションプランが明確にされている必要がある。また、これらの一連の計画を明示することは、求められる人材像を計画にすることにもつながっていくものである。現在では年度事業計画は策定されているが、一貫性のある計画類の整備を、今後検討して策定に取り組んでいくことが望まれる。
3	タイトル	利用者意向や地域ニーズの把握に基づいた新たな取り組み
	内容	現在のところでは、利用者の意向や地域における当園に対するニーズなどの把握は、通常の活動の中でのコミュニケーションや苦情解決制度の運用に拠るところが大きく、アンケート調査やそれに基づく集計や分析は行われていない。しかし問題意識もあるとのことで、アンケート調査も含めて利用者の意向を正しく把握できるような調査方法を今後模索していく必要を感じているとのコメントもあったため、今後の取り組みに期待したい。